

平成 26 年度
(2014 年度)

事業報告書



学校法人 研伸学園

1 法人の概要

1) 設置等

学校法人研伸学園・愛知きわみ看護短期大学は、平成 15 年 4 月 30 日に設置認可を文部科学省に申請し、同年 11 月 27 日に文科高第 588 号により、学校法人研伸学園の設置が認可となった。愛知きわみ看護短期大学は、文部科学省の設置認可に基づき平成 16 年 4 月 1 日に修業年限 3 ヶ年の看護学科（入学定員 80 人）を置く短期大学として設置された。

2) 建学の精神

本学園の建学の精神は、第一に地域に密着し、教養・技術の向上はもとより、地域の要請に応え、時機に即した教育を具体的に展開していくことにある。第二に、社会がいかに大きく変わろうとも、建学の精神を一貫して堅持していくことである。すなわち「生命の尊重と人間の尊厳を理念として、幅広い教養と豊かな人間性を持ち、誠実・親切に人々と相互信頼を保ちながら、看護を実践し広く社会に貢献できる看護師を育成する。」ことである。

3) 教育理念

建学の精神に基づき幅広い教養と豊かな人間性を持ち、誠実、親切に人々と相互信頼を保ちながら、様々な環境・条件に応じて、看護の専門知識・技術を総合的な判断により創造的に対処・適応させる実践力の育成、臨床能力と調整能力をあわせた看護実践力の確かな育成をすることにより、健康福祉の向上に貢献できる看護師を育成する。

4) 教育目標

深い専門の知識・技術を持つ看護実践力のある人材を育成するための目標である。

- 1) 人間を総合的に理解し対象の人権、価値観、尊厳を尊重した姿勢を堅持することができる人材を育成する。
- 2) 誠実な心で共感をもって人々に接することができる人材を育成する。
- 3) 学んだ知識・技術を活用し、対象の成長・自己実現を援助するとともに自身も成長することができる人材を育成する。
- 4) 看護の専門知識・技術を総合的な判断により創造的に対象に適応させた看護の実践ができる人材を育成する。
- 5) 研究に関心を持ち自ら向上させるように主体的に学習を継続する能力を持つ人材を育成する。
- 6) 看護の担うべき役割を展望し、発展させ得る基盤となる能力を持つ人材を育成する。
- 7) 社会の多様な情報を生かし、地域社会の発展に寄与する基盤を持つ人材を育成する。

5) 設置する学校・学科

愛知きわみ看護短期大学 看護学科

6) 入学定員と平成 26 年度收容定員・現員(平成 26 年 5 月 1 日現在)

学 科	定 員	收容定員	現 員
看護学科	80 人	240 人	242 人

【参考】平成 27 年度の入学定員と学生数の状況(平成 27 年 5 月 1 日現在)

学 科	定 員	収容定員	現 員
看護学科	80 人	240 人	233 人

7) 入試に関する状況

(人)

種別	年度	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推薦	23	43	43	37	37
	24	70	69	35	35
	25	62	62	40	40
	26	51	51	40	40
	27	47	47	39	39
一般	23	261	243	71	37
	24	256	233	84	44
	25	233	212	76	39
	26	275	232	86	35
	27	163	137	96	39
社会人	23	15	14	9	9
	24	31	30	5	5
	25	17	17	3	3
	26	16	15	1	1
	27	5	5	3	3
学士	23	8	8	3	3
	24	9	8	1	1
	25	5	4	2	2
	26	6	5	1	1
	27	5	5	2	2
専門高校	23	1	1	1	1
	24	5	5	0	0
	25	3	3	1	1
	26	1	1	1	1
	27	2	2	1	1
計	23	328	309	121	87
	24	371	345	122	85
	25	320	298	127	85
	26	349	304	129	78
	27	222	196	141	84

8) 役員・教職員の概要(平成 26 年 5 月 1 日現在)

ア) 役員概要

理事 5 名 (理事長含む) (寄附行為第 5 条第 1 項第 1 号)

監事 2 名 (寄附行為第 5 条第 1 項第 2 号)

区分	氏名	摘要
理事長	伊藤 伸一	平成 15 年 12 月理事就任 同年 12 月理事長就任
理事	御供 泰治	平成 19 年 1 月理事就任 学長
理事	末岡 熙章	平成 18 年 12 月理事就任
理事	中北 武男	平成 15 年 12 月理事就任
理事	下郷 宏	平成 22 年 5 月理事就任
監事	安江 嘉高	平成 18 年 12 月監事就任
監事	花木 利明	平成 15 年 12 月監事就任

※理事 1 名、評議員 1 名欠員

イ) 評議員 12 名 (寄附行為第 17 条第 1 項第 2 号)

ウ) 理事会の開催回数 3 回

エ) 評議員会の開催回数 2 回

オ) 教職員の概要 (平成 26 年 5 月 1 日現在) (人)

職	教授	准教授	講師	助教	助手	小計	事務職	合計
	4	2	7	9	2	24	7 パート 3	31 パート 3

【参考】平成 27 年 5 月 1 日現在における教職員の概要 (人)

職	教授	准教授	講師	助教	助手	小計	事務職	合計
	3	2	7	9	3	24	10 パート 3	34 パート 3

9) 学生の修学、進路選択及び心身の健康に係る支援

学生の修学、進路選択及び心身の健康に係る支援を実施するために「学生支援センター」を拡充し、充実した学生生活を送られる様に支援活動を行っている。

- ・ 支援センターは、教員 5 名、事務職員 2 名で構成され、法人事務局長が支援センター長を併任している。
- ・ 支援センターの業務は大きく 5 つの機能に分かれる。室員により業務分担を行い、担当している。
 - A. 学習支援
 - B. 健康支援
 - C. キャンパスライフ支援
 - D. 同窓会支援
 - E. 進路(就職、進学)支援

・ 「A. 学習支援」は指導教員制により、専任講師以上の教員が各学年 7~8 名の担当制となっており、教員の空き時間に連絡を取って教育指導が行われている。また、学習のみならず生活面での相談にも対応し、学籍の変更(休学、復学、退学等)の際には、承認を得るようにしている。センターが行っている活動は、

基礎学力である数学や生物に関し、センター所属の助教が個別指導を行っているほか、最近話題となっている、大学生の「学士力不足」を補うため、入学試験合格者を対象に3回のスクールタイプの入学前教育を実施し、人体構造の基礎、基礎生物学、基礎数学、基礎英語、レポートの書き方、ノートの取り方、看護学の学び方、高校と大学の違い等について講義し、入学後の教育に備えている。参加者は入学者数の90%を超えている。また、24年度からは更にガバナンス機能の強化の観点から、推薦入試合格者の学力強化策として、合格発表後の12月から3月までの間5回の教材による物理・生物・化学・数学・日本語の入学前教育を実施し、25年度からは、特別入試合格者をも含め教育している。

- ・「B. 健康支援」は定期健康診断、インフルエンザワクチン接種、学校医対応、保健管理等学生の健康に関する企画を担当し、常日頃から、学生が健康で修学できるよう配慮している。看護学生であるから、日頃から自己の健康管理につとめる他、健康問題を意識づけができるよう配慮している。また、最近では、メンタルヘルスも健康支援の大きな課題となり、臨床心理学の専門家（本学非常勤講師）による学生相談を実施し、多くの学生からの相談を受けている。
- ・「C. キャンパスライフ支援」はキャンパスアメニティの向上を目指し、小さな声の取り上げやその対策を行っている。駐輪場の整理、学習室における飲食対応、自動販売機対応等の改善により小さなキャンパスでも使いやすく綺麗なキャンパスとなることに心がけている。
- ・「D. 同窓会支援」は卒業生を取りまとめ、まだまだ若い卒業生に、同窓会の組織を意識付けし、卒業生との連携を深めて行くことの指導を行なっている。本年3月での卒業生も660名となり、担当者を増やし企画の立ち上げ等を進めるよう指導を行っている。
- ・「E. 進路（就職・進学）支援」は将来的には、支援センター業務として実施することとなるが現状では、進路指導委員会により現状把握が行われており、相談室を担当する進路指導委員会副委員長はじめスタッフ全員で、就職関連資料を整理・閲覧し、参考図書及びパソコンを導入し、懇切丁寧に指導を行っている。

10) 事業の概要

第2次安倍内閣が掲げたアベノミクスによる円安で業績を回復した輸出企業等が、新規採用を積極的に示している。しかしながら、少子高齢化が進む中、大学、特に、短期大学を取り巻く環境は非常に厳しいものがある。また、4年制大学の看護学部設置が、毎年増設され、ますます厳しい状況にある。このような中、平成26年度に実施してきた事業の概要については、次のとおり示す。

ア) 在学生と卒業生との交流会を実施

本学の恒例となっている企画で、卒業後、それぞれの病院で活躍している本学の卒業生10名を招き、看護師国家試験対策や就職先を決めた理由及びその病院での体験等について報告があった。その後に、個別のコーナーで、在学生が、興味のある病院の体制や勤務状況、更に国家試験対策の具体的な問題集などについて積極的に意見交換する交流会を開催した。交流会では、在学生から「現場の生の話が聞けてよかった。」等の反響があり、先輩だからこそ話せる話にも積極的に耳を傾けるなど、友好的な雰囲気での交流会となった。

イ) 自己点検・評価報告書（X）2013年度を発行

第三者評価も第2クールに入り、新基準による評価を、各大学・短大等で実施し、学園経営の安定化、教育内容の充実により、学士力を持った学生を育てるべく大学の使命が求められることになってきた。

本学においても新しい基準に基づいた検証を行い、「自己点検・評価報告書（X）2013年度」を12月に発行した。

ウ) 第9回きわみ祭開催

創立10年目の年、「おいでよ、きわみの森」のテーマで10月26日（土）予定していたが、台風直撃の予報を受けることが予想されたため、第8回きわみ祭を中止ではなく、12月21日（土）に「きわみんピック」として運動会を、一宮市立スポーツ文化センターにおいて開催した。今年度は、「おい

でよ、きわみの森」から「おかえり、きわみの森」のテーマで10月25日（土）に開催された。模擬店、大雄会病院からの実体験コーナーなど有意義な企画でした。

エ) チアフル運動会を本学において開催

地域のグループホーム「チアフル」が主催する、運動会が本年も11月2日（日）に開催しました。認知症の高齢者を抱える家族とのふれあいの場ともなり、地域に根差した活動として、本学も積極的に協力し、事務局スタッフ3名を始め高齢者看護学の教員2名、学生ボランティア13名が運営や出場者として参加しました。

オ) 公開講座の開催

昨年度は、創立10周年として記念式典及び記念講演会が開催された。記念講演会では、きわみホールにおいて至学館大学教授でもある、栄和人先生に「人を育てる一夢や情熱を持ち続ける一」を演題とし、吉田沙保里選手ほか、強力選手育成のエピソード等を熱く語られた。

今年度は、元NHK「ためしてガッテン」専任ディレクター 北折一先生をお招きして「ガッテン流！楽チン健康管理術—無駄に死なない“からだ”をつくろう—」をテーマに開催しました。特にダイエットなど興味深い話をされました。参加された方々の感想では、身近な健康法などを難しい話をわかりやすく話していただき、生活の中に取り入れ実践していきたいとのことでした。

カ) 平成26年度臨地実習立志式を開催

1年次の学習を終えようとしている学生が、今後予定されている各臨地実習において目的・目標の達成を目指して主体的に取り組むことが出来るように、基礎看護学実習Ⅱに先立って看護師をめざす決意を新たにすため、1月16日（金）に本学きわみホールにおいて開催された。今年度も第11期生全員でオリジナルの「誓いの言葉」を宣誓しました。幻想的な雰囲気の中、実習への決意が示された。

ク) 貴船小学校の教育に参加

昨年度も実施した、地域の小学校である貴船小学校の初経教育に本学1年生が7名参加した。看護職を目指す学生が子供たちとの交流の中で分かり易く、身体の変化等について話し、学生も児童からも友好的交流ができた。

ケ) 診療情報管理士試験合格者

平成20年から、看護師以外の資格として、診療情報管理士を目指すスーパーナース育成のため、国際疾病分類概論等7科目の講義を開講してき、3年前ころから卒業生がチャレンジしてきたが、本年3名の受験生のうち2名が合格した。

財務の概要

平成26年度の決算については、別添のとおりである。

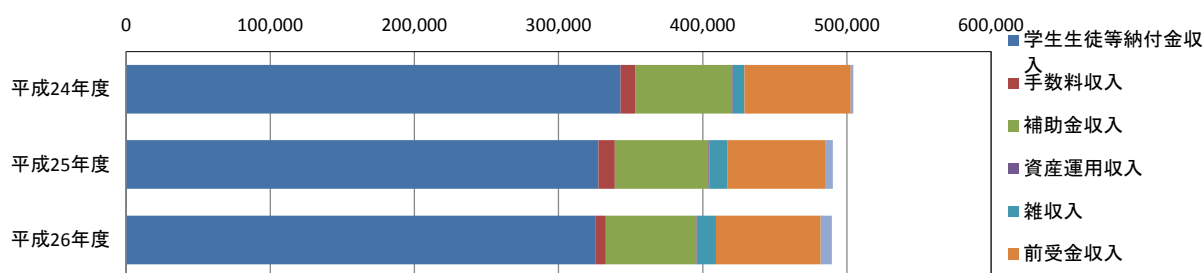
【資金収支計算書／資金収入の部】

(単位:千円)

区 分	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
学生生徒等納付金収入	343,008	343,008	327,616	327,616	325,350	325,350
手数料収入	10,438	10,437	11,300	11,300	7,350	7,350
寄附金収入	0	0	0	0	0	0
補助金収入	67,053	67,053	64,974	64,974	62,825	62,825
資産運用収入	481	481	605	605	615	615
資産売却収入	0	0	0	0	0	0
事業収入	0	0	0	0	0	0
雑収入	8,030	8,030	12,459	12,459	13,129	13,129
借入金等収入	0	0	0	0	0	0
前受金収入	73,600	-	68,300	-	72,600	-
その他の収入	1,887	-	4,973	-	7,656	-
資金収入調整勘定	△ 76,104	-	△ 81,256	-	△ 76,550	-
前年度繰越支払資金	699,310	-	745,835	-	770,903	-
収入の部合計	1,127,703	429,009	1,154,806	416,954	1,183,879	409,270

【資金収支計算書／資金収入の部】

(単位:千円)



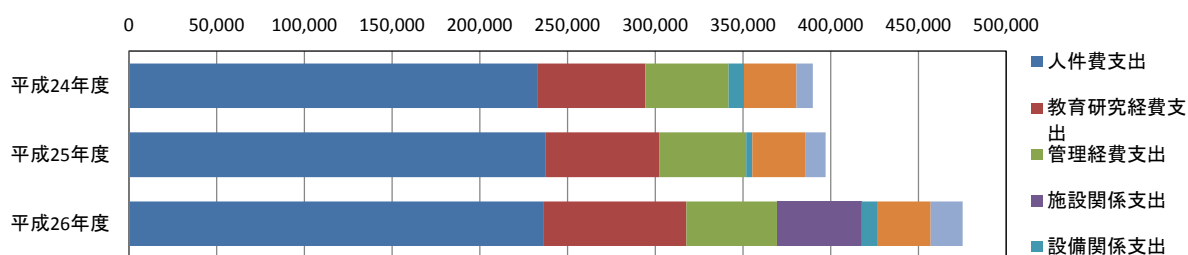
【資金収支計算書／資金支出の部】

(単位:千円)

区 分	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
人件費支出	232,681	225,283	237,697	237,697	236,456	231,788
教育研究経費支出	61,704	61,704	64,463	64,463	81,242	81,242
管理経費支出	47,409	47,002	49,742	49,742	51,578	51,179
借入金等利息支出	0	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0	0
施設関係支出	0	0	0	0	48,067	0
設備関係支出	8,673	8,673	3,443	3,443	9,558	9,558
資産運用支出	30,035	-	30,041	-	30,048	-
その他の支出	9,323	-	11,662	-	18,283	-
資金支出調整勘定	△ 7,959	-	△ 13,146	-	△ 8,947	-
次年度繰越支払資金	745,835	-	770,903	-	717,593	-
支出の部合計	1,127,703	342,662	1,154,807	355,345	1,183,879	373,767

【資金収支計算書／資金支出の部】

(単位:千円)



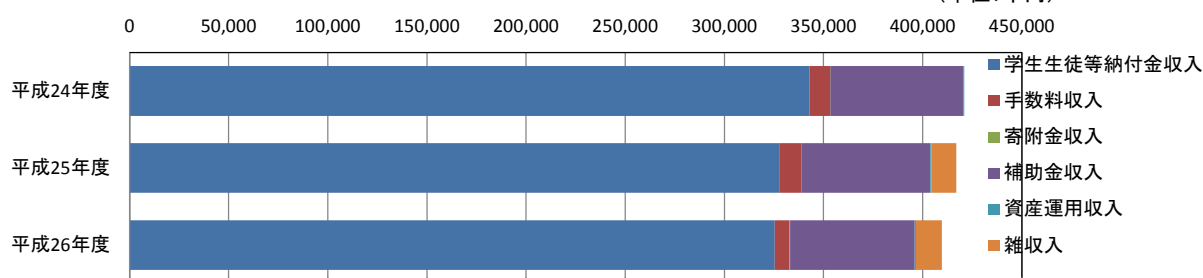
【消費収支計算書／消費収入の部】

(単位:千円)

区 分	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
学生生徒等納付金収入	343,008	343,008	327,616	327,616	325,350	325,350
手数料収入	10,437	10,437	11,300	11,300	7,350	7,350
寄附金収入	11	11	0	0	469	469
補助金収入	67,053	67,053	64,974	64,974	62,825	62,825
資産運用収入	481	481	605	605	615	615
資産売却差額	0	0	0	0	0	0
事業収入	0	0	0	0	0	0
雑収入	8,030	8,030	12,459	12,459	13,129	13,129
帰属収入合計	429,021	429,021	416,954	416,954	409,740	409,740
基本金組入額合計	△ 10,823	△ 10,823	△ 5,673	△ 5,673	△ 58,125	△ 58,125
消費収入の部合計	418,197	418,197	411,281	411,281	351,614	351,614

【消費収支計算書／消費収入の部】

(単位:千円)



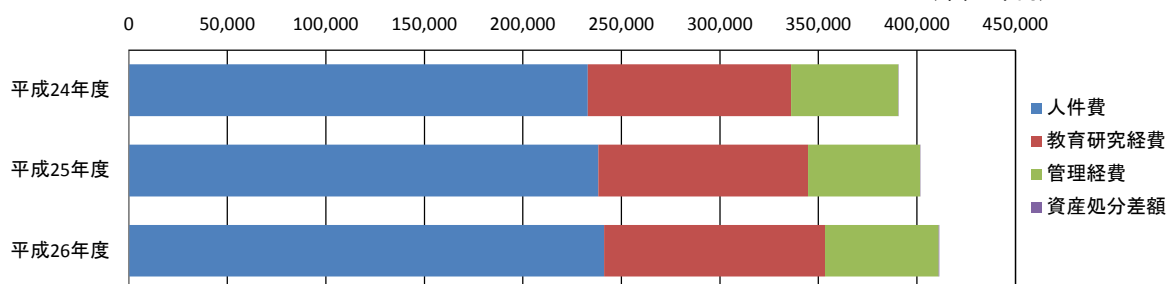
【消費収支計算書／消費支出の部】

(単位:千円)

区 分	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
人件費	232,895	225,497	238,227	233,670	241,204	236,536
教育研究経費 (うち減価償却額)	103,150 (41,445)	103,150 (41,445)	106,463 (42,000)	106,463 (42,000)	112,194 (30,952)	112,194 (30,952)
管理経費 (うち減価償却額)	54,529 (7,120)	54,122 (7,120)	56,858 (7,116)	56,355 (7,116)	57,560 (5,982)	57,161 (5,982)
借入金等利息	0	0	0	0	0	0
資産処分差額	133	133	42	42	348	348
徴収不能引当金繰入額(または徴収不能)	0	0	0	0	0	0
消費支出の部合計	390,708	382,904	401,592	396,532	411,308	406,241
当年度消費収入(支出)超過額	27,489		9,688		△ 59,693	
前年度繰越消費収入(支出)超過額	423,357		450,846			
基本金取崩額						
翌年度繰越消費収入(支出)超過額	450,846		460,535		400,841	

【消費収支計算書／消費支出の部】

(単位:千円)



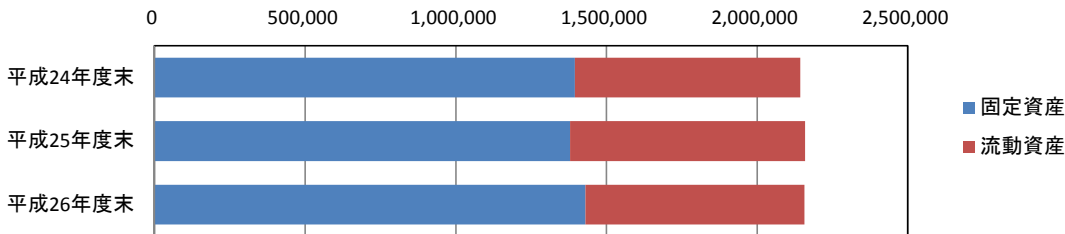
貸借対照表の概要(学校法人)

(各年度末日現在/単位:千円)

資産の部	科目	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末
固定資産		1,394,736	1,379,061	1,429,921
	有形固定資産	1,176,092	1,132,195	1,149,158
	その他の固定資産	218,643	246,865	280,762
	有価証券	0	0	0
	長期貸付金	0	0	0
	減価償却引当特定資産	210,152	240,193	270,241
	第3号基本金引当預金	0	0	0
	施設利用権	140	121	103
	長期性預金	0	0	0
	保証金	3,740	3,740	3,740
	ソフトウェア	4,609	2,808	6,677
流動資産		748,754	779,500	726,929
	現金預金	745,835	770,903	717,593
	未収入金	2,304	7,656	8,250
	短期貸付金	0	0	0
	有価証券	0	0	0
	前払金	615	940	1,084
資産の部合計		2,143,490	2,158,561	2,156,850

【貸借対照表/資産の部】

(単位:千円)



(各年度末日現在/単位:千円)

負債の部				
固定負債	14,823	13,869	18,525	
流動負債	86,168	86,831	82,031	
	前受金	73,600	68,300	72,600
	未払金	10,721	14,015	8,099
	預り金	1,847	4,516	1,332
負債の部合計	100,992	100,700	100,556	

【貸借対照表/負債の部】

(単位:千円)



(各年度末日現在/単位:千円)

基本金の部			
基本金合計	1,591,651	1,597,324	1,655,405
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費収入(支出)超過額	450,846	460,535	400,841

財務状況

(単位:千円)

短大の消費収支	年度	帰属収入	消費支出	差額	帰属収支差額比率	人件費比率	教研経費比率
	26	409,740	406,241	3,499	0.85%	57.73%	27.38%
	25	416,954	396,532	20,422	4.90%	56.04%	25.54%
	24	429,021	382,904	46,117	10.75%	52.56%	24.04%
法人の消費収支	年度	帰属収入	消費支出	差額	帰属収支差額比率	人件費比率	教研経費比率
	26	409,740	411,308	-1,568	-0.38%	58.87%	27.38%
	25	416,954	401,592	15,362	3.68%	57.14%	25.54%
	24	429,021	390,708	38,313	8.93%	54.29%	24.04%

#####

入学状況等	設置学科・選考	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数	入学定員充足率	収容定員充足率
	看護学科	80	96	240	233	1.20	0.97
	合計	80	96	240	233	1.20	0.97